

日々挑戦 安曇野から届ける、 こだわりの野菜

小松 康則さん(42・堀金三田)



生まれ育った安曇野で仕事と趣味を全力で楽しんでいる小松さんに安曇野と農業の魅力と今後の夢を聞きました。

感覚に深く響く自然と共に

安曇野はすぐ近くにキャンプ場などの自然を楽しめる場所があり、日々の暮らしの中で、ふとした瞬間に心を落ち着かせてくれる風景に出会える大好きな場所です。マラソンが趣味で各地の大会に出場していますが、常念岳をはじめとする北アルプスの山並みや、田んぼの香り、小麦が風にそよぐ音など、安曇野には五感だけでなく、感覚のもっと深いところに訴えかけてくる他にはない魅力があると感じています。

農業を始めたのは、学生時代の知人から「一緒に働かないか」と声をかけられたことがきっかけです。実際にやってみると、作物はきちんと手をかければ応えてくれますし、管理の仕方にも自由度があって、自分のように「人と違う道を歩みたい」と思う性格にはぴったりでした。普段は朝5時に起きて、自分の畑を1時間ほど見てから会

社へ出勤します。会社では米・麦・大豆を生産しており、大型機械を使った大規模で先進的な農業に携われることが魅力です。一方で、完全無農薬での栽培など、さまざまな農法にも挑戦でき、幅広い経験が積めるのもやりがいのひとつです。

安曇野流の農業を世界へ

個人では西洋野菜を少量多品目で栽培し、県内外の料理人と直接契約することで、こだわりを共有しながら野菜づくりに取り組んでいます。

将来は海外に住み、日本のやり方で野菜や米を育てながら、現地の人に日本や安曇野の食文化や野菜のおいしい食べ方を伝えるのが夢です。言葉の通じない環境でも、自分の力を試したいと思っています。その夢に向けて安曇野で技術を磨き、人とのつながりを大切にしながら、これからも歩んでいきたいです。

プロフィール

妻と中学1年、小学5年生の娘の4人暮らし。株式会社宮澤ファームで働きながら、自身も農家として水稲、西洋野菜などの栽培・出荷を行う。趣味はマラソンやキャンプで安曇野ハーフマラソンには毎年参加している。

大好きな安曇野で自然や暮らしの魅力を伝え、つながりを作り続けている島さんに活動への思いや今後の希望を聞きました。

広がり続ける 良さを伝える活動

生まれ育った水や空気がきれいな安曇野とそこに暮らす家族や友人への感謝——。この場所の良さを伝え、つながりをつくりたいと思い2017年にUターン。幼なじみと一緒に「安曇野の良さを伝え隊」の活動を始めました。

インスタグラムのアカウントを開設し、安曇野の景色や飲食店などの情報の発信からスタート。同時にリアルでも安曇野の良さに気づいてもらうきっかけを作ろうとクラフト作家やお菓子屋さんなどが集まるマルシェイベント「And Place」を初開催しました。かじかの里公園で開いた1回目から年に1回のペースで場所を移しながら続けています。5回目の開催となった2023年には100店舗を超える出店が集まり、最大規模となりました。

「And Place」のコンパクト版の「Little And Place」や観光協会と共催の「あづみ野てらす」など出店者と来場者がつながれる場になるように安曇野でさまざまなイベントを企画しています。

ハッピーな安曇野を目指して

活動をしながらずっと考えていた「もっとみんながつながる拠点を作りたい」という思いから、KIYA cafe & hostelを2019年4月にオープンしました。移住を悩んでいる人がここに訪れたことで住むきっかけになったり、引越したばかりの人に知り合いを紹介したりと常にKIYAがここにあるからこそできているつながりも生まれうれしく思います。今まではこのKIYAを軌道に乗せることに必死でしたが、最近はずつ理想に向かって動き始めています。20年後も安曇野がハッピーな場所であるために今できることをする。それが私と会社のビジョンです。

安曇野には、穏やかながらも地域を良くしたいと熱意を持っている人がたくさんいます。そんな地域の皆さんと関われることはとても心強く思います。今後企画しているイベントを通して、皆さんと共にまだ知らないこの大好きな安曇野の魅力を探しながら、思い描く20年後のビジョンに向かって歩き続けていきます。

プロフィール

株式会社安曇野の良さを伝えたい代表。高校卒業後上京し、ファッション関連業界で働いたのち、26歳で安曇野にUターン。イベントの運営や店舗の経営を通じて安曇野の魅力を発信し続けている。

島 友理奈さん(37・穂高柏原) 安曇野の魅力を伝え、 つながりを作り続ける

